

安倍改造内閣と消費再増税

政治ジャーナリスト
後藤謙次

- *ミヤンマーからの安倍首相の電話
- *小泉流を踏襲する2度目の安倍政権
- *安倍首相が解散に踏み切った背景
- *急いだ日中首脳会談の実現
- *年内解散の日程はこうして決まった
- *公明党との連携はどう進んだか
- *2016年衆参同日選挙が消えた理由
- *足並み揃わない野党の台風の目は共産党
- *長期政権目指す安倍首相の次の課題
- *今後の注目は加藤勝信・内閣官房副長官



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は政治ジャーナリストの後藤謙次さんに来ていただきました。解散総選挙を狙ったわけではないんですが、本日はベストのタイミングになりました。皆さんもこの間、政局が劇的に変わり、どうなっているか詳しいお話をお聞きしたいかと思えます。先ほど伺いましたら、11月3日に最初に解散のお話をテレビでされたのが後藤さんでございます。9日に新聞では読売が初めて書きまして、そこから流れが一気に変わりましたが、底流がどうだったかというお話それから今後の政治はどういうふうに進んでいくのかということをリアルにお話しいただけると思えます。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

ミヤンマーからの安倍首相の電話

後藤 皆さんこんにちは。よろしく願います。

非常に微妙なところでありますけれども、解散そのものは決まっております、実は12日、おとこの夜、フジテレビのプライムニュースに冒頭30分間お招きいただいて、家に帰ろうと思いましたが、自民党の総務会長の二階俊博さんから電話がかかってまいりまして、「今、二階派の若い議員がここにそろっているから、ちょっと顔出して活を入れてくれ」と。こういう話でしたので、二階さんに取材したいことがあったので、これ幸いと思って、赤坂のビルの3階にあるスナックに行きました。そうしました